

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

「実習生だった私から皆さんへ」

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 **横山ひろみ**

はじめに、大学教職員の皆様にお礼を申し上げたいと思います。

東日本大震災という未曾有の大災害に見舞われながらも卒業や国家試験に関する手続きなど迅速に対応していただき、大変感謝しております。おかげさまで、無事「社会福祉士」になることが出来ました。資格を活かして現在、精神障がい者を支援する事業所で生活支援員として勤務しています。

1. 社会福祉士を目指して

私は30歳を超えてから大学に入学しました。社会福祉士という資格については以前から知っており、取得したいという気持ちもあったのですが、高卒者である私には受験資格を得るルートが途方もなく遠い道に思えて、見て見ぬ振りをしてきました。もう遅い、もうこんな年齢だし。そう自分に言い訳して、気になるのに前に進めない。それなら現場を知ってから決めようと、介護老人保健施設での勤務を始めました。重い腰をあげることができたのは30代半ば。始めてみたら、勉強の難しさよりも楽しさが先立ちました。出来るか出来ないか、それを決めるのは自分の能力でも年齢でもない、自分で限界を決めてしまう気持ちだが、たくさんの可能性をつぶしてしまうんだと気づきました。可能性を信じること、これも福祉の現場には大切なことだと思います。

2. 実習前

実習先には児童養護施設を選びました。虐待や貧困、家庭環境などの問題から親とともに暮らすことができない子どもたちが、施設でどのように生活し、自立や成長のために何を必要としているのか。やがて大人になる子どもたちのその後の人生を支援するためにも、現実を知り理解することが重要だと考えました。

児童養護施設という場所は、誰でも訪れることができる場所というよりは、ある意味で社会と「隔離された」場所のイメージがありました。見えないからこそ実習前に少しでも知らなければならぬと思い、施設の子どもたちのルポルタージュを読み、施設を選ぶ際にはホームページやパンフレットを閲覧し、インターネットで情報を調べたりしました。自分の足(思い)で情報を集める、これが実習準備の第一歩と言えるかもしれません。

3. 実習で学んだこと

自立支援計画や子どもたちの現状(家族関係や身体・知能、施設利用に至る状況など)に関する情報は、個人情報なので閲覧・確認は出来ませんが、子どもたちと接していくうちにそれぞれの課題が見えてきました。家庭支援専門相談員の先生も、「法制度などは教科書で学べるけれど、子どもたちとの生のかかわりは実習期間にしかできない。子どもたちとのかかわりから、それぞれが抱える現実や必要とされる支援、援助の方法を学んで欲しい」とおっしゃっていました。机上ではなく現場での生の経験の重要性。子どもたちはまさに「生きた教科書」で、学ぶことばかりでした。学習指導では子どもたちのペースにのまれ、学習が進まないことも多かったし、被虐待児の態度の急変は(ルポで読んでいたにもかかわらず)

かなり戸惑いました。子どもの対応には慣れていると思っていた私ですが、子どもたちとどうコミュニケーションをとっていけばいいのか、なかなかコツがつかめませんでした。

子どもたちに共通していえる課題は、家庭での生活経験が極端に少ないため様々な経験度が低いということです。たとえば、野菜や果物の形や調理の過程、買い物の仕方や公共交通機関の利用の仕方など、当たり前に見えること、つまり「生活する力を身につける方法」を知る機会がない。機会を意識してつくっていかねばならない生活が、施設の子どもの現実なのです。それでも、置かれた現実とはまるで逆の、みんなの笑顔と明るさは印象的でした。あの笑顔に、実習中の心細い思いが何度も救われました。

専門職の心構えとしては、「支援するのは自分ひとりじゃない、チームとして、みんなで支えていくのだ」と教わりました。今も対応で悩むときには、先生のこの言葉を思い出しています。私は相手に感情移入しすぎてひとりで抱え込むところがありますが、この言葉で体の力みが和らいだように思います。支援は、一人で抱え込めるものではない。それほど人一人の人生は重く、大きなものである。そう示していただいたことが、私にとって前に進む一歩になりました。

4. 教科書はいつも目の前にある

実習生だった自分を振り返り、さらに現在の職場で実習生を受け入れるときに思うことは、ありがとう・ごめんなさいなど当たり前の言葉をきちんと相手に伝えるということです。言葉ひとつで、利用者との関係が良好にもその逆にも育つことがあります。たとえば私がそうであったように、社会経験者やすでに福祉の現場で働いている学生さんもいらっしゃるでしょうが、実習中はあくまで学生です。学ぶ姿勢を忘れてはいけないと思

います。実習という短い期間では、利用者とのコミュニケーションがうまくとれないこともあるでしょう。でも、できないことがあって当たり前。それが実習生です。また別の視点では、今年は東日本大震災の年ですから、防災に対する心構えも必要になるかもしれません。

一人で抱え込まずに、なんでもスタッフに相談しましょう。迷うときにはもう一度、実習生として自分の出来ることは何か、自分がやらなければならないこと（実習生としての学習）は何だったのかということ振り返ってみてほしいと思います。私も悩んだり、迷ったり、日々の作業に流されたりしてばかりの実習期間でした。今でもあまり変わらず、毎日ばたばたしています。それでも、そこにそれぞれの「学び」があるのだと思います。

たくさん悩んで、迷って、お互い「生きた教科書」からたくさん学びましょう。

東日本大震災への特別対応事項(1)【再掲載】

今回の震災にあたって、『With』74～76号冒頭部分でご案内した特別対応事項の主なものを再掲載いたします（p. 24にも掲載）。

●仙台の交通・宿泊について（9.10現在）

大学付近の市バス、仙山線は通常運行しています。東北新幹線は、9月23日より通常ダイヤに戻ります。仙台空港アクセス鉄道は、10月1日より全線で運行を再開し、通常ダイヤに戻ります。

宿泊は日によって混雑しています。早めの予約をお奨めします。「じゃらん」「楽天トラベル」などで予約できなくても、『試験・スクーリング情報ブック2011』5部などを参照しホテルへ直接お問合せいただくと予約が可能な場合があります。また、空室は変動があります。

●公共交通機関不通区間の本学来校者の駐車許可について

仙台会場のスクーリング・科目修了試験日に鉄道・バスなど公共交通機関が寸断されている地域（石巻・気仙沼など沿岸部を想定）にお住まいの方は巻末の「配慮希望申請用紙」を提出すれば大学キャンパス内への駐車認められる場合があります。震災前の通学ルートと、不通区間などの状況、車のナンバーをお書き添えの上、スクーリング10日前には「配慮申請」を提出してください。駐車スペースは限られていますので、許可制で全員の方への割り当てが難しい場合もあります。その他の方は、大学への車での来校や駐車はできません。

●緊急事態発生時のご連絡手段について

万一スクーリングが中止になった際、メール・お電話・郵送などさまざまな手段で中止の連絡に最大限の努力をいたしますが、連絡がとれない学生の方もおられます。

通信教育部ホームページ、またはそこから閲覧可能なTwitter：<http://twitter.com/tfutsu>でも速報提供を行います（停電時は不可能）。